



新型コロナウイルス感 染症の若者への影響 (モンゴルの場合)



革新的 遠隔学習

自宅で学習している子どもたちの多くは、安定したインターネット環境がない。こうした中で、1年生から12年生向けに4,800時間分のテレビ授業を制作し、15のチャンネルで放映。また、特別支援が必要な生徒、衛生教育、文化的関心、国家試験の勉強向けのテレビ授業も制作・放映された。



若者の メンタルヘルス対応

パンデミック期間中に約4分1の若者が不眠、うつ、不安を訴えたことから、家族子供青年開発局が専門家によるカウンセリングを行うメンタルヘルスホットラインを開設。また、若者向けに、SRH、家族計画、メンタルヘルスの問題について話し合える、穏健なソーシャルメディア・グループを提供。



オンラインの催しと 娯楽提供

パンデミック中の若者の退屈やうつ状態を解消するため、青年育成センターが、楽器、ダンス、基本的な心理学・自己啓発など若者向けの参加型の催しをオンラインで複数回企画・実施。



若者の就職支援

政府は5,000億MNT（約2億米ドル）を計上し、専門技術、衛生教育、健康的な生活習慣に関する若者向け研修プログラムを実施し、受講者には毎月100万MNT（約360ドル）の奨学金を支給。



孤立した学生の 支援

厳しいロックダウンと移動制限によって寮に閉じ込められて、家族から遠く離れて都市部で寮生活をしているモンゴルの多くの大学生に教育・科学省、そして連携する市民社会組織が衛生セットと食料品を配布。



新たな青年法に 関するオンライン協議

労働省は、新たな青少年育成法の施行計画に青少年が確実に参加できるように、規則案をウェブサイトに掲載し、若者からの感想や全般的な意見を募るとともに、パンデミック中に若者が抱えている具体的な課題について意見を交換した。



若者に生産的活動への参加を呼びかけるバーチャルキャンペーン「Youth Unite against Coronavirus（若者が団結してコロナに立ち向かおう）」を実施し、若者にマスクの縫い方を教え、他の人にもマスクの作り方を教え、困っている人に分けるよう呼びかけた。